

第7回戦略会議レポート

2018/2/28 13:30~15:30
湯沢町役場3階 大会議室



井口代表より

インバウンドも増え、観光圏活動も注目されている。JRCの発表によると2022年には、日本人宿泊者と外国人の数がほぼ同等になると推測される。2030年には売上の2/3が外国人になるという。受け入れ体制のアクションをしていかななくてはならない。しっかりと議論を進めていく。

大地の芸術祭／原氏

世界で行くべき10の場所に、新潟県が選ばれ、世界で行くべき展覧会に日本で唯一大地の芸術祭が掲載！海外メディアからの注目が集まり、団体問合せが連日殺到。前回51万人の来場者だったが、今年は1.2倍はきそう。宿も足も人手も足りておらず、皆様ご協力をお願いします。



Top 10 Japan Travel Destinations For 2018
Our predictions for the best places to visit in Japan for 2018.

十日町の観光協会含め大地の芸術祭合同事務局を開設する予定。情報を集約し観光圏と連携して広報やプロモーション、インバウンド施策を行っていきたい。

各WG 29年度の動き

■雪国文化研究WG 細矢MG(佐藤座長欠席のため)

・執行状況、シンポジウムは予算20万円、有識者謝金旅費等199860円。次年度は雪国の街道と石仏について4月~11月に例会を開き、基礎的資料の収集と保存アーカイブ機能を構想したWGの立案で進めていく。

■食のブランドWG 細矢MG(岩佐座長欠席のため)

・全6回 食の学校を開催。予算は50万円で謝金・交通費あわせて50万円で予算通り。次年度も引き続き講演会や料理教室を開催し、料理人、事業者、一般住民、A級グルメ参画店などを啓蒙していく。著名な料理人とのコラボディナーイベント等も企画していく。

雪国観光圏の理念

『100年後も雪国であるために』

ひとつずつでは埋もれてしまう地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨き上げることで世界に通用する価値を生み出す。

雪国観光圏のブランドコンセプト

『真白き世界に隠された知恵に出会う』

■スノーカントリートレイルWG 田中ディレクター

2月14日にWGを行い、3月20日のプレスリリースについての話し合いを行う。オープニングイベントは2018年9月8日(土)に開催予定。

・許認可関係

魚沼市)駒ヶ岳特定公園 県に申請、許可が下りた。栄村)北信地域振興局長より許可、環境省に連絡。南魚沼市)道路上の道標やガードレールにSCTの道標をつける事で国交省に協議。みなかみ)自然保護地区の許可が環境省から下りる。

プレスリリース(2018年3月20日)

- ・コースマップ(A2両面 500部)
- ・トレイル弁当(800円程度)
- ・司会は実行委員長久保氏、3分程の映像後、井口代表より挨拶、コースディレクターよりモデルコースの案内、今後の受入態勢案内など。

※写真は、当日の様子が上毛新聞に掲載されたもの。



■観光協会WG 深津座長

- ・ワンストップ窓口の整備と観光協会連携を促進
 - ・地域全体における外国人受け入れ環境の整備促進
 - ・体験プログラムの造成と相互販売の促進
- 相互販売について覚書をつくり対応予定(ひな型が上がってきたばかり)。雪旅と観光協会の住み分けも必要。二次交通WGに対する要望(周遊促進に向けた要望書)を作成、提出。

■二次交通WG 細矢MG(永井課長欠席のため)

・予算執行状況については資料をご確認ください。Googleマップの掲載について課題に取り組んできたが、次年度は3年間のWG報告書を作り活動を中止。

■女性コーディネイター研究会 細矢MG

・現場でのイベント情報の共有や窓口でのインバウンドの対応共有など。今後は行政の垣根を超えた情報発信をしていく。

観光圏の2次交通を考える

■WGが休止するという意向を頂き、インバウンドを考える中では重要な課題だがWGでの活動では難しいという考え。整備など事業者負担が大きく、投資ができない。

■観光庁参事官へ要望:利用者が少ない自治体の情報はGoogleマップに載らず外国人への情報が行き届かないため変換する方法などを検討して欲しい。

→ 更新メンテナンスがしやすいフォームを用意するなど考えてみるとの話。

■大地の芸術祭もあり、国からの施策を待てない。地元民はバスに乗らないので課題に気づかないのでぜひバスに乗って体感してみたい。

各プロジェクトの進捗状況 奥田

■サクラクオリティ KPI100施設に向けてH29は28施設が参加。現在は調査も終わり認証の星付作業中。インバウンド向けHP作成のため各旅館から調査票を提出いただきアピールしたい項目を英訳している。勉強会を行い、2020年までに新潟県で300施設の導入を目指す。

次年度は7・8月に調査員研修、9・10月に調査。宿からの要望としてはマニュアルや看板整備の方法を知りたい。

■A級グルメ 100施設を目指す。現在認定店には多くの視察が来ており、今成漬物店には観光庁からも視察が入り、近隣店舗からも問い合わせが来ている。事業者同士が刺激しあひ向上の効果も認められている。

次年度事業について／フリートーク

【サクラクオリティ】

- ・ほとんど民宿で稼働率が低く自信と誇りが無い。品質認証のフェーズまで持って行くのが大変。
- ・事業者の動機付けになるような説明会を。
- ・県が行うからと参画だけ促すのは難しく、事業者自らの意思で宿を見直してできた状態でインスペクションしてもらうのが基本。品質認証の大切さを概念に持つのが重要で、出来る事から改善を。
- ・まだまだ格付けという印象が強いので、説明会が重要。旅行者にとっては良い制度だと思う。
- ・初期経費を行政でもつという考え方もある。



【H30年新支援体制について／UDJ】

- ・全国観光圏は定例会議と人材育成研修。9月にツーリズムエキスポ・UDJブース出展。
- UDJに関して、雪国観光圏としては特に出ないのか。
- 個別には出さない。全国観光圏の中で4番バッターなのでそこでのPRで。市町村単位の観光協会でするのはご遠慮頂けたらと思う。
- DC絡みで新潟・庄内で出すという話も聞いている。
- トラベルマートのほうが魅力的なのでそちらに出るような商品を作った方がいい。タリフに載せればGMTにもセールスに行ける。



【観光圏整備計画案について】

- ・共通しているのがインバウンドへの対応だったが、人材についてはマーケティングやマネージメントの専門人材の場合もあればガイドのような接客接客の人材がほしいというのもある。
- ・地域のキーパーソンになるようなプレーヤーを育てる。観光地域づくりマネージャーとして育成する。
- ・インバウンド、国内外へのアプローチ
- ①新規顧客と新規資源(文化) ②新規顧客と既存資源(スキー・スノーカルチャー) ③既存顧客と既存資源(食)。食はガストロノミー。食イベントや収穫祭をまとめて新しい商品のように見せる戦略。この3本の矢を進めたい。

* 日本版DMOから世界基準になる際に大切なのが、財源と権限。宿泊税や滞在税も視野に入れて。国の施策はインバウンドが対象なのでA級グルメ等は対象外。自走の形を考えていきたい。



【H30年度 個別事業計画】

- ・マーケティング調査(サンプル1000、分析レポート含め合計83万円。)
- ・全国観光圏推進協議会(会議・マネージャー育成研修・サクラクオリティ)
- ・UDJ情報発信事業 ・ブランド戦略策定事業 ・インバウンド向け2次交通の整備(松之山温泉ツアーバス運行)
- ・英語版ブランディングブック(インバウンドプロモーション)特設サイトの作成、PRイベント、欧米対象モニターツアー。

※来年度戦略会議 4月24日(火)13時～湯沢町役場で開催予定。

※レポート内敬称略。

連絡先:一般社団法人雪国観光圏事務局
新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2431-1
TEL:025-785-5353 FAX:025-785-6767